

～ 腹部超音波検査 ～

副脾

脾臓の近くに脾臓と同じ組織像をもつ1～2cm大の腫瘤のことで、健康な人の10%の割合で認められます。単発のものから多発するものまであり、病的な意義はなく、特に治療の必要はありません。

腎のう胞

腎臓に袋状の組織ができ、その中に液体が溜まった状態をいい、良性の疾患です。単発あるいは多発し、加齢とともに発生頻度が増加します。小さいものは心配ありませんが、大きくなると治療が必要な場合があります。定期的に検査を受け、大きさの確認をすることが大切です。

水腎症

尿の通り道が拡張している状態を腎盂拡張といい、中等度から高度の場合、水腎症といいます。超音波で結石や腫瘍が見えなくても、それらが水腎症の原因になっている場合があります。したがって、精密検査が必要な場合があります。

膵のう胞

膵臓に袋状の組織ができ、その中に液体が溜まっている状態です。膵液が溜まっている場合や、液体で作る腫瘍ができている場合などがあります。小さくて単純な形ののう胞は心配ありませんが、5mm以上ののう胞や複雑な形ののう胞は経過観察や精密検査が必要な場合があります。

胆のうポリープ

胆のうの粘膜がコレステロールの塊などで隆起した状態です。
人間ドック受診者の10%程度にみられます。
急速に大きくなるものや、1cm以上の場合はがんや良性腫瘍の
可能性があるため、精密検査が必要な場合があります。

脂肪肝

肝臓に脂肪が過剰に蓄積した状態です。主に過度の飲酒や肥満が原因で、
生活習慣病(脂質異常症、糖尿病、高血圧)との合併率が高い疾患です。
高度になると肝硬変や肝細胞がんへ発展することがあり、脂肪肝がみられる人は
生活改善が必要です。食生活を見直して栄養過多を避ける、減量を図る、
飲酒量を減らす、などで治癒が可能な疾患です。

肝血管腫

細い血管が絡み合っている腫瘍で、肝臓では高頻度で発生する良性腫瘍です。
よほど大きくなければ心配ありませんが、初めて発見された時や
経過観察中に大きさの変化がみられる時は、精密検査が必要な場合があります。